

新登録答申文化財概要（三重県）

● 旧喜多藤別館 ほか6件 （名張市）

【名称】 旧喜多藤 別館・大広間棟・翠明荘・臯月寮・艶秀亭・便所棟・表門 計7件

(きゅうきたと

べっかん・おおひろまとう・すいめいそう・さつきりょう・えんしゅうてい・べんじょう・おもてもん)

【種別】 国登録有形文化財（建造物）

【所在地】 名張市本町

【年代】 別館：大正12（1923）年

大広間棟：昭和11（1936）年

翠明荘：昭和11（1936）年

臯月寮：昭和11（1936）年

艶秀亭：昭和7（1932）年

便所棟：大正12（1923）年

表門：大正12（1923）年

【建築面積】 別館 209 m²、大広間棟 164 m²、翠明荘 59 m²、臯月寮 12 m²、艶秀亭 103 m²、便所棟 39 m²、表門 間口 2.6m

旧喜多藤は名張市中心部にあり、初瀬街道（はせかいどう）に面した本町通りに位置します。喜多藤は、屋号「北出屋」として明治時代以前から旅館を営み、明治時代に「喜多藤」と改名しました。昭和56年に廃業するまで、名張川沿いに建つ料亭旅館として隆盛を誇り、名張市の初代市長を輩出しました。

別館は切妻（きりづま）屋根の木造二階建てで、二階の名張川側はガラス窓開口として眺望を誇ります。大広間棟は入母屋（いりもや）屋根の木造二階建てで、二階に44畳の大広間があり、結婚式の披露宴会場としても利用されていました。翠明荘、臯月寮、艶秀亭、便所棟はいずれも木造平屋建てで、翠明荘、艶秀亭には居室、客室が、臯月寮には4畳の茶室が設けられています。初瀬街道に面した入母屋（いりもや）屋根の表門は、街道沿いの景観を彩っています。

旧喜多藤は初瀬街道や名張川沿いの歴史的景観を形成し、料亭旅館の繁栄を現在に伝えています。



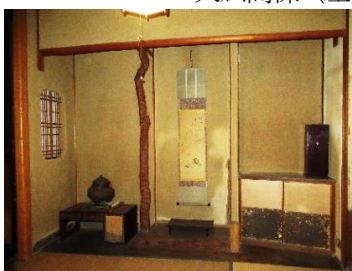
別館（北西から）



大広間棟（左）・別館（右）（南から…名張川から）



翠明荘 居室



臯月寮 茶室



表門（西から…初瀬街道から）